

ネット依存とは

スマートフォンや携帯ゲーム機等のインターネット端末機器が子どもたちにも広く普及する中、子どもの成長の過程で過度にインターネットを利用する状態が見られるようになりました。

そのような状態が続き、やがて生活リズムの乱れ、昼夜逆転生活による不登校、物へあたる・壊す、家族への暴力など、本人や家族の日常生活が困難になり、本人の意思だけではやめることができない状態を総じて、ここでは「ネット依存」と表します。

冒頭にも記しましたが、2017年度の全国の中高生を対象とした厚生労働省研究班による抽出調査において、インターネットの病的使用者をスクリーニングする8項目からなるテストの結果、93万人の中高生が病的使用者であると推計されました。

また、2019年には世界保健機関（WHO）が特にゲームに関し「ゲーム障害」を国際疾病として正式に認定しました。

「児童生徒のインターネット過剰使用に関する調査」

当県民会議では、本県の子どもたちのインターネット過剰使用等の実態を明らかにし、実態を踏まえた予防対策に役立てるため、長崎市教育委員会の協力により次のとおりアンケート調査を実施しました。調査結果の一部を紹介します。

■調査対象 長崎市立小学5学年・6学年、中学生の児童生徒

(小学校14校466人、中学校18校599人 ※1校において1学年1学級)

■調査期間 令和2年2月

1 どれくらいいつかっている？ (平日の1日平均使用時間)

	小学生 (男子・女子)	中学生 (男子・女子)
① 全くしない	8% (8・8)	6% (6・6)
② 1時間未満	25% (17・32)	16% (12・21)
③ 1～2時間	34% (36・33)	40% (40・40)
④ 2～3時間	17% (19・15)	20% (20・20)
⑤ 3～5時間	11% (13・10)	14% (18・10)
⑥ 5時間以上	5% (6・3)	3% (3・3)

小学生は、長時間使用(2時間以上)が33%。男子の方が高い。特に平日に5時間以上使用している児童が20人に1人の割合でいる。

中学生は、長時間使用(3時間以上)が37%。こちらも男子の方が高い。



2 どんなサービスを使っている？ (利用しているインターネットサービス 複数回答)

	小学生	中学生
① 情報調べ	57% (51・62)	74% (71・78)
② メール	21% (12・30)	16% (16・17)
③ LINE・チャットなど	32% (30・35)	71% (66・76)
④ ブログ・掲示板	9% (15・5)	4% (6・2)
⑤ SNS	14% (7・21)	46% (36・56)
⑥ オンラインゲーム	48% (66・31)	46% (69・21)
⑦ 動画サイト	80% (82・78)	85% (85・85)
⑧ その他	12% (9・15)	11% (9・13)

小学生は、①動画②情報調べ③オンラインゲーム
男子のオンラインゲームの割合は66%。

中学生は、①動画②情報調べ③LINE・チャットなど
小学生に比べLINE・チャットの割合が高い。



※数字はすべて% 2は複数回答